

# 「夫を偲びて」

綾瀬市 小嶋 まさ子

謹啓

光蔭矢の如しと申します。戦争を知らない世代が過半数を占める世の中となりました。

ヤゴダ会の皆様には変りませず遺族の私共にお声を頂き厚く御礼申し上げます。

会員皆様様の筆舌にも尽きませぬブカチャーチャでの御苦労には及びも致しませぬが私共も又戦後の混乱を精一杯生き抜いて参りました。孫もそろそろ成人する今日この頃はその思い出が唯一の宝物となりあの世の主人への何よりの手土産と考えて居ります。

その折々に詠みました拙い短歌ですが会誌の一隅にでもと思い恥をしのんで筆を取りました次第です。

## 短歌

戦友つわもののみ霊 むかえて天竜寺

曹源の池に秋雨ぞ降る

戦友と共に露国にヤゴダの実

食みて飢をばしのぎしと云ふ

尋ねゆかん願むなく夫果てし

シベリヤはるか我老増して

敗戦の遠く哀しき思出も

今はうすらぎむかへる夫の忌

賜りし献花ひとつも駅前

交番にあげぬ旅にてあれば

遺骨なき墓に詣でて幾年ぞ

炎天の下今日も回向す

亡き夫に歲月なくて三十七年みそしちせ

老ゆるは一人我のみにして

幹事の皆様会員の皆様や御遺族の皆様方、何卒御健康に留意遊ばされまして主人始め御霊の分まで御長命下さいます様お祈り申し上げます。

合掌